

将来、医療や介護の現場を支えていく 人材を育成するバリアフリーラボ。



多くの学生たちが集まった時の学びやすさにも配慮した、ガラス張りで透明性の高い実習室。畳のスペースは、旅館に泊まった場合や、和室の横にある押し入れの空間をトイレに改修した場合なども想定している。また、トイレブースの扉は、開き戸や引戸、折戸など多様である。

北海道医療大学は、リハビリテーションの真のプロフェッショナルとなる人材を養成することを目的に、2013年4月、新たにリハビリテーション科学部を開設。これに伴って、大学の中心となる当別キャンパスの中央講義棟を、それまでの3階建てから10階建てへと増築しました。新しい建物の7Fには、「バリアフリーラボ」と呼ばれる、日常生活活動学の実習室を用意。理学療法士や作業療法士をめざす学生たちが、体験しながら深く理解できる学びの場となっています。

介助のあり方を考え、地域の介護や 医療の向上につなげる、体験型のスペース。

7Fの実習室にはさまざまなコーナーがあり、地域で暮らす人の生活や身体の状態に合わせて「その人らしい暮らしを支える」にはどうしたらよいか、自ら体験しながら考えることができます。壁面がガラス張りのトイレや浴室、さらには玄関、キッチン、洗面台などを再現。多くの異なるタイプを用意し、手すりを自由に付け替えられるなど、器具にも工夫を施しています。「いろいろな想定」をキーワードとし、どんな空間や設備にしたらよいか、リアルタイムに比較しながら考えることのできる場がつくられています。

また、同じく7Fフロアのトイレも体験型のスペースとし、さまざまな形状や色、高さの、便器や手すりなどを設置。日常的に使う場所で、学生たちが身をもって、「快適で使いやすいトイレとは？」と問いかけながら探る、画期的な空間となっています。



北海道医療大学の当別キャンパス。奥に見える建物が、今回10Fまで増築した中央講義棟。

【北海道医療大学 当別キャンパス 中央講義棟 増築工事】

- 竣工年月 / 2013年3月
- 所在地 / 北海道石狩郡当別町金沢1757
- 施主 / 北海道医療大学
- 基本設計 / 株式会社鉄川建築設計事務所
- 施工 / 株式会社大林組 札幌支店
- 実施設計・施工 / TOTOエンジニアリング株式会社 (7F:バリアフリーラボ)

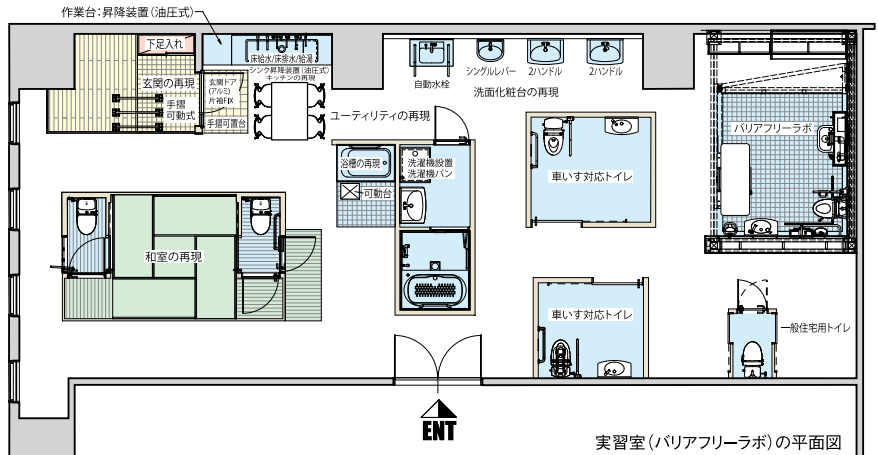


7Fのトイレスペースの前には、「この階のトイレは、学生の講義や研究のため意図的にさまざまなタイプの便座を配置しています。ご自分に合った便座をお使い下さい」とのお知らせが掲示され、それぞれ異なる多種の小便器・大便器が備えられている。





車いす対応の多機能トイレ。なお、実習室では、足の動きを制限するなどの高齢者疑似体験キットを使って、座った時からの立ち上がりを検証してみたり、より本人に近い身体状況を感じる工夫も行われている。



実習室 (バリアフリーラボ) の平面図



浴室は2タイプ。手すりは吸盤付きで、位置を自由に変えられる。



壁や器具を自由に動かしてレイアウトし、シミュレーションによって使い勝手を体感・検証できる空間も設けられている。



車いす対応トイレは2タイプが用意されている。奥に見えるのはユーティリティを再現した、洗濯機や洗面台のあるスペース。



一般的な住宅のトイレも再現して、在宅での介助を想定できる。



洗面台も多様で、その人にどんな仕様が使いやすいかを考えられる。



キッチンのシンクには、シャワーノズル付きなど、さまざまな水栓を設置。シンクの高さは自動昇降で変えることができる。

Voice 大学の先生からの声

日頃の行動によって感じるものが、教育には大切です。



北海道医療大学
リハビリテーション科学部
理学療法学科 教授
鈴木英樹さん

最初は、バリアフリーラボではなく、バリアフルラボをつくりたかったんです。地域の人々の普段の暮らしを支えるには、一般的な家庭の水まわり空間を再現し、「そこでどうするか？」を考えるべきだと思ったからです。生活支援の正解は一つではなく、ユニバーサルプランも、それが万人に使いやすいわけではありません。専門的な知識を押し付けるのではなく「対象となる方が、どのように暮らしたいのか？」と相手のことを

を考え、発するサインを見逃さないことです。そのためにも、日頃の行動の中で感じてもらうことが、教育には大切ですね。今後はこの場を町民の方々と専門職、設計の方にも使ってもらえるように考えていきたいです。

Voice 設計担当の方からの声

一般家庭の実状に沿ったアイデアを形にしました。



株式会社鉄川建築設計事務所
次 長 加藤義弘さん(左)
設計主任 奥山和子さん(右)

7Fのトイレでは、各便器の種類、色、手すりや紙巻器の形や取付位置まですべて変えた経緯もあり、徹底してお施主様の「いろいろな想定」に対応できるよう心がけています。バリアフリーラボ周辺では、豊からトイレ

に入るなど先生の原案には随分感心させられました。その先生の考え方をスケッチに起こして基本プランをまとめました。実施設計ではノウハウのあるTOTOエンジニアリングさんにご協力頂き、施工まで監修させて頂きました。